「世界農業遺産」
日本の農業をいま一度見直す

取材協力：佐渡市農林水産課生物多様性推進室、能登地域 GIAHS 推進協議会

伝統的な農業や文化風習・生物多様性の保全を目的とする「世界農業遺産」に、2011 年 6 月、新潟県の佐渡市と石川県の能登地域が認定されました。これを機会に、日本各地の農業・農村の持つ役割について考えてみませんか。

「世界農業遺産」の認定で社会・経済環境の強化へ

「世界農業遺産」とは、国際連合食糧農業機関が2002年に立ち上げたプロジェクトで、正式には「Globally Important Agricultural Heritage Systems」、頭文字を取って「GIAHS（ジアス）」とも呼ばれています。地域環境を生かした伝統的農法や、生物多様性が守られた土地利用のシステムを、世界に残す目的で創設されました。

「世界農業遺産」プロジェクトは、各地の優れた農業の事例を蓄積して共有し、持続可能な資源管理と活用の基盤を築くことが大きな狙いです。環境の変化に適応しながら、先祖代々受け継がれてきたシステムを重視し、農法や土地利用だけでなく、優れた景観・生態系・伝統文化なども含めて、地域資源として捉え、次世代への継承を目指しているものです。

その「世界農業遺産」に2011年6月、日本の新潟県・佐渡市、石川県・能登地域が、世界で9番目、先進国では初めて「世界農業遺産」の認定を受けました。これを受けて、農林水産省は「戦後高度成長を遂げ、経済大国の仲間入りを果たして久しいわが国において、農業の近代化と並行して、伝統的な農業・農法、農村文化や生物多様性、農村景観などがシステムとして保全されており、その維持に努めている地域が認められた」と評価しています。

これらの農業・農村が持つ多面的機能は、今回認定された佐渡市や能登地域に限らず、皆さんの身近な場所にもたくさんあります。「世界農業遺産」に認定された場所を「サイト」と呼びますが、サイトに認定されると、日本国内だけでなく国際的な知名度も高まるため、観光振興や農産物販売など長期事業の基礎としても活用することができます。これを機に、日本各地の農業・農村の持つ役割に目を向けてみてはいかがでしょうか。

認定ポイントをチェック！

新潟県・佐渡市

1. 農業生産システムに「朱鷺（とき）と暮らす郷づくり認証制度」を導入し、消費者と連携しながら島全体へ広げている。
2. 生物多様性保全型農業と農業経済が連携し、持続的な環境保全体制を構築している。
3. 佐渡金山が風景と文化に大きな影響を与え、生物多様性と農業生産活動を育むことによって、農村コミュニティーを保全してきた。

石川県・能登地域

1. 生物多様性が守られた伝統的な農林漁法と土地利用が今も展開されている。
2. 能登野菜をはじめ固有種が豊富に生産されるなど、農業の多様性を維持している。
3. 優れた里山景観や日本の農山漁村の原風景とも表現される景観を継承している。
4. 里山や里海などに関連した、伝えていくべき伝統的な技術を継承している。
5. 長い歴史の中で育まれた農耕にまつわる文化や祭礼を継承している。
6. 農林漁業者や行政、地域住民、高等教育研究機関などが連携して里山里海の利用保全活動に取り組んでいる。

新潟県・佐渡市「トキと共生する佐渡の里山」

金山と農業の関わりが伝統文化と生物多様性を保全

水田に舞い降りたトキ

佐渡市には、１０００ｍ級の山々が連なる山脈があります。山や深い森がもたらす恵みによって、トキが野生復帰できる豊かな生態系を維持しています。豊かな佐渡金山が促した農業生産活動の活性化が、棚田など里山の自然形成や能、鬼太鼓などの農村文化を生み、発展させてきました。生物多様性保全型農業と農業経済の連携により、トキと人が共生できるような持続的な農業生産活動を行っていることが世界的に評価されています。世界農業遺産の認定には、多くの生産農家の賛同を得るなどご苦労があったようですが、トキの餌場となる生物多様性を持った田んぼを作り、またその生産農家の米をブランド化して売れる米作りをしていこうと「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を導入。地域に伝わる農業システムの冬水田んぼ、水田魚道やビオトープ（生物生息空間）の設置などに取り組み、「今後は『環境学習の島』を佐渡の産業として位置付けていきたい」（佐渡市農林水産課生物多様性推進室）と意欲的です。

トキの餌場として魚道やビオトープの設置が進んでいます

ジアス（GIAHS：世界農業遺産）
佐渡市ホームページ
http://www.city.sado.niigata.jp/topics/gihas/index/index.shtml

石川県・能登地域「能登の里山里海」

伝統的な農林水産業の営みが育む生物多様性

美しい里山の農村風景が見られる羽咋市神子原地区の棚田

能登地域は、七尾市・輪島市・珠洲市・羽咋市・志賀町・中能登町・穴水町・能登町と、八つの地方自治体が連携しているのが特徴です。認定に向けて各自治体の意識の違いなど、意思統一が難しかったといいますが、８市町を会員として能登地域ＧＩＡＨＳ推進協議会が設立されています。標高２００ｍから５００ｍ程度の丘陵地が大部分を占め、山ひだの小さな平地に谷地田に代表される美しい農村風景が見られます。大きな川や高い山がなく、里山から里海へ続く能登地域では、農林水産業が密接に関わって生物多様性を育み、特有の風習や行事、祭礼など、伝統的な農村文化や独自の景観が形成されてきました。「今後は能登の里山里海でとれる海の幸・山の幸の安全・安心とおいしさをアピールするとともに、生産者や農林水産に携わる方々の所得の向上に向け、地域の担い手や関係機関と連携して、地域の活性化を進めたい」（能登地域ＧＩＡＨＳ推進協議会）とのこと。いっそうの維持・発展が期待されます。

珠洲市にある「揚げ浜式塩田」での製塩風景

世界農業遺産
「能登の里山里海」
情報ポータル
http://www.pref.ishikawa.jp/satoyama/noto-giahs/

イラスト：服部新一郎

ねぇあそぼ　そのひとことが　うれしいな